



— 漁村のにぎわい創出に向けて —

漁港や藻場を活用した 漁業体験プログラム づくりの手引き



青森県農林水産部水産局漁港漁場整備課

はじめに

近年、漁業を取り巻く環境は、漁獲量や魚介類の消費量の減少に加え、漁業者の高齢化、地球温暖化による海洋環境の変化など、一層厳しさを増しています。特に、漁業が中核産業である漁村地域では、人口減少も相まって、地域のにぎわいが急速に失われつつあります。

一方で、漁村地域は豊かな自然環境、四季折々の水産物や海洋性レクリエーションなど多様な地域資源に恵まれています。豊かな地域資源を最大限活用し、観光客など外部から人を呼び込み、交流を促進することが、人口減少時代における新たな地域のにぎわいづくりに求められる視点なのではないでしょうか。

このたび、漁村地域のにぎわい創出を目的に、漁村地域ならではの地域資源である「漁業」を活かした観光用体験プログラムづくりに関する手引きを作成しました。本手引きでは、組織づくりから具体的なプログラム開発までのプロセスやポイントとともに、誘客や人との交流に欠かせない「おもてなし」についても取り上げています。

本県は、三方を海に囲まれ、地域・季節毎の多種多様な魚介類・水産加工品などの「食」や風光明媚な海洋景観などの「自然」にも恵まれた、まさに漁業体験プログラムづくりに適した地域資源の宝庫です。

ぜひとも県内漁業関係者の皆さまが、自治体や観光業関係者、地域団体などと連携しながら主体的に漁業体験プログラムづくりに取り組むことにより、漁村地域のにぎわい創出や地域経済の活性化、ひいては本県の水産業の発展につなげるための一助として、本手引きを活用していただければ幸いです。



目次

手引きの使い方	5
---------	---

第1章 漁業体験プログラムづくりに向けた準備

1. 運営組織の体制づくり

(1) 運営組織の形態	8
(2) 組織体制の検討	9
(3) 事務局の設置	10
(4) 必要人材の確保	11

2. 事業計画の作成

(1) ビジョン(将来像)の設定	12
(2) 事業計画の検討内容	12
(3) 事業計画作成のプロセス	14
(4) 事業計画の進捗管理と見直し	21

第2章 漁業体験プログラムづくり

1. 漁業体験プログラムづくりの流れ

(1) 漁業体験プログラムづくりのプロセス	24
(2) 地域資源のマッチングと磨き上げ	25
(3) 体験プログラム案の作成	26
(4) 先進事例視察、専門家アドバイスの活用	28
(5) モニターツアー	28
(6) 漁業体験プログラムの商品化	29

2. 漁業体験プログラムづくりと商品化のポイント

(1) 漁業体験プログラムに関連する許認可	30
(2) 代替プログラムの準備	32
(3) 料金設定の考え方	33
(4) プロモーション	34
(5) お客様アンケートを活用したプログラムの改善	36
(6) 2次交通対策	36



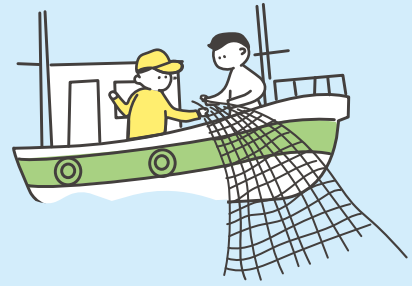
第3章 漁業体験プログラムにおける安全管理

1. 想定されるリスクについて	38
2. 安全管理対策	
(1) 安全管理体制の整備	39
(2) 緊急連絡先一覧の作成	40
(3) 事故発生時の対応	41
(4) 緊急対策マニュアルの作成	42
(5) 漁業体験プログラムにおける安全管理チェックポイント	42
3. 食の衛生管理	
(1) 食中毒への対応	44
(2) 食物アレルギーへの対応	46
4. 保険への加入	47

第4章 漁業体験プログラムの実践（モデルプログラム）

1. モデルプログラム①【藻場活用編】	
(1) 藻場活用プログラム内容（例）	50
(2) 当日スケジュール（例）	51
(3) 準備するもの	51
2. モデルプログラム②【養殖生け簀活用編】	
(1) 養殖生け簀活用プログラム内容（例）	52
(2) 当日スケジュール（例）	53
(3) 準備するもの	53
3. モデルプログラム③【漁港活用編】	
(1) 漁港活用プログラム内容（例）	54
(2) 当日スケジュール（例）	55
(3) 準備するもの	55
4. モデルプログラム④【代替プログラム編】	
(1) 代替プログラム内容（例）	56
(2) 当日スケジュール（例）	56
(3) 準備するもの	56
5. 漁業体験プログラム実践の流れ	57
6. 漁業体験プログラム実践に向けたチェックポイント	58





第5章 漁業体験における「おもてなし」

1. 「おもてなし」とは？

- (1) 「おもてなし」とマナー、サービス、ホスピタリティの違い 62
- (2) 「おもてなし」はファンやリピーターづくりのカギ 62
- (3) 「おもてなし」の心構え 63

2. マナーの基本

- (1) 挨拶 64
- (2) 笑顔 65
- (3) 返事 66
- (4) 態度 66
- (5) 身だしなみ 67
- (6) 言葉づかい 67

3. 漁業体験プログラムにおける「おもてなし」

- (1) 体験プログラム実践前 68
- (2) 体験プログラム実践中 69
- (3) 体験プログラム実践後 70

4. 「おもてなし力」の向上

- (1) 「おもてなし」の振り返り 71
- (2) 「おもてなし研修会」の開催 72
- (3) 「おもてなしマニュアル」の作成 72

- 取り組み事例紹介 74



手引きの使い方

1. 目的

漁村地域ならではの地域資源を活かした漁業体験プログラムづくりによって、漁村地域のにぎわい創出や地域経済の活性化などにつなげていくための手引きとなることを目的としています。

2. 対象者

- 漁師や漁協職員などの漁業関係者
- 観光業関係者（観光協会、飲食・宿泊業者、旅行業者など）
- 自治体、地域団体などの関係者

3. 使い方

本手引きは、以下の内容で構成されています。まずは、自分たちの現状やニーズに合ったステップから取り組みを進めていきましょう。

STEP 01 第1章 漁業体験プログラムづくりに向けた準備
・運営組織づくり
・事業計画づくり など → P8～

組織づくりから
始めたい

STEP 02 第2章 漁業体験プログラムづくり
・プログラムづくりの流れ
・許認可、価格設定、プロモーション など → P24～

プログラムを
作ってみたい

STEP 03 第3章 漁業体験プログラムにおける安全管理
・海での事故、緊急時の対応
・食中毒やアレルギーへの対応 など → P38～

安全管理について
知りたい

STEP 04 第4章 漁業体験プログラムの実践
・4つのモデルプログラムの紹介
・実践時のチェックポイント など → P50～

具体的な
プログラムを
知りたい

第5章 漁業体験における「おもてなし」
・「おもてなし」とマナー
・具体的な「おもてなし」の例 など → P62～

お客さまを
「おもてなし」したい

